



TSUNAGU

令和3年6月11日
我孫子市小中一貫教育だより
第230号

小から中への滑らかな接続に向けて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

今年度は Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践についてお伝えしていくうな～！

今年度は、市内全校で、Abi☆小中一貫カリキュラムのうち、「Abi-ふるさと」と「Abi-キャリア」について、共有授業実践に取り組みます。

「Abi-ふるさと」からは「ふるさと我孫子の先人たち」をテーマにした授業実践を、「Abi-キャリア」からは、「職業に関する学習」「いのち・こころ・からだの学習」「食育」の3つのテーマの授業実践を共有授業実践として本紙で紹介していきます。

小中学校間はもちろん、市全体で共有し、Abi☆小中一貫カリキュラムへの理解を深められたらと思います。

今回は、「Abi-キャリア」のうち、我孫子中学校の「食育」に関する授業実践を紹介します。

栄養バランスのとれた給食の献立を考えよう（食育）

6月2日に、我孫子中学校第2学年の家庭科の学習で行われました。

授業は、家庭科担当教員と栄養士のチーム・ティーチングで行われました。学習のテーマは給食の献立づくり。栄養バランスのよい献立をつくるための専門的な知識については、栄養士が説明し、家庭科担当教員がそれを生かして授業を進行します。

子供たちは、普段の食生活を振り返りながら、自分に不足している栄養は何か、中学生に特に必要な栄養は何かなど、今の自分と向き合った上で献立を考えていました。こうした学びが「キャリア教育」につながっています。

給食については、栄養士が費用面や設備、調理方法の制約など、様々な制約の中で必要な栄養とおいしさを求めて作っていることを具体的に説明し、家庭科担当教員からは給食のおぼんの上を想像するとよいことや旬の食材を生かすことなどをアドバイスします。2人の授業者が、それぞれの専門性を生かして多面的に思考できるように連携できることも、チーム・ティーチングの魅力。主体的・対話的な学びのための有効な方法です。

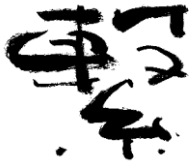
子供たちは、班ごとに、和風、洋風、中華風といった食のテーマを決めて、個々に考えた後グループで話し合います。話し合いの中で、子供たちから「和（風）の中に、洋（風）が入ってもいいかな？」という問いが生まれ、栄養士のアドバイスを受けながら、さらに学びを深めて行く様子が見られました。



2021/06/02



2021/06/02



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続に向けて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年6月30日

我孫子市小中一貫教育だより
第231号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践
の紹介うな~!

今回は、湖北台中学校の「Abi-ふるさと」の「ふるさと我孫子の先人たち」の授業実践と、湖北中学校の「Abi-キャリア」の「職業体験学習」に関する授業実践を紹介します。

なお、「ふるさと我孫子の先人たち」については、「Abi-ふるさと」のカリキュラムとして学習しますが、そのうち、「飯泉喜雄」「田口静」「中野治房」については、郷土愛を育む「Abi-道徳」として、「特別の教科道徳」で学習します。

Abi-ふるさと（道徳） 我孫子の先人「中野治房」

6月7日に、湖北台中学校第1学年の道徳の学習で行われました。

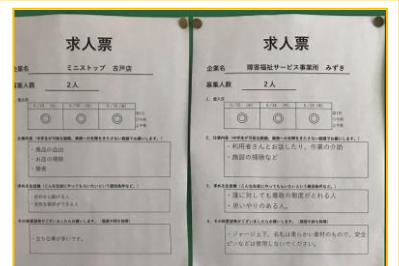
我孫子の先人の一人「中野治房」は、湖北出身で、手賀沼の水生植物「ガシャモク」を発見した植物学者です。植物学者として生涯、研究と教育に携わりながら、湖北村の村長をはじめ、地域のために様々な役割を果たし、深い郷土愛で地域に尽くし貢献しました。



しかしながら、現在、「ガシャモク」は絶滅危惧種に指定されています。授業では、その背景にある手賀沼の水質の変化や、今後先人の功績を受け継ぎ、自分達にできることは何かを話し合いました。

Abi-キャリア 職場体験学習

6月14日に、湖北中学校第2学年で職場体験学習の一環として、就職体験学習を行いました。生徒たちは、先生方が作成した様々な業種の求人票をもとに、希望するものを選びます。そして、申込書を担当の先生に提出し、エントリーシートの作成に挑みます。本時は、作成したエントリーシートをもとに面接を実施しました。



本番の前には、生徒が面接官の役となり、練習を行いながら、改善点を指摘したり、よりよい受け答えができるようアドバイスをしたり、多面的・多角的に学びを深めていました。

Abi-キャリアでは、学校と地域とが連携した取組や体験的な取組をとおして、子どもたちの学びを一層充実させることを目指しています。こうした学びや経験が、今後、自分自身を見つめるときに、またキャリアプランを考えるときに、とても大切になります。我孫子市では令和4年度からコミュニティ・スクール制度を導入し、学校と地域が一層連携・協働し、ともに子ども達を育てていく仕組みづくりを進めていきます。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続において

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年8月4日

我孫子市小中一貫教育だより

第232号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



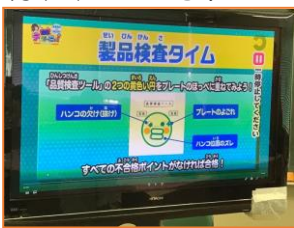
布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践の紹介うな~!

今回は、布佐南小学校・湖北台東小学校・我孫子中学校・新木小学校での共有授業実践について紹介します。

Abi-キャリア 職場体験学習

6月24日に、布佐南小学校第6学年で、一般企業「バンダイ」のCSR*活動の一環として行われている、「バンダイ出前授業プログラム」を取り入れたキャリア教育を行いました。



子ども達は、まず、企業の大切な仕事の一つ、製品の「安全点検」をしていることを学びます。続いて、実際に作業を体験します。その中で、うまくいかないこと、課題となることに気付くと、グループで課題解決に向けて話し合い、何度も挑戦して課題をクリアしていきました。



本授業をとおして、仕事について実際に触れ、体験するだけでなく、学んだことを生かし、また話し合いをとおしての課題解決を体験することができました。また、社員の方から企業のモットー「楽しく働く」という話を聞き、働くことへのイメージも膨らんだようです。

※CSR (Corporate Social Responsibility) とは、企業の社会責任のこと。企業が利益を求めることだけでなく、社会を作っている仲間のひとりとして、社会的な影響に責任を持ち、世の中がよくなっていくように努力することです。こうした、企業との連携学習の中で、子ども達が社会の一員として体験的に学ぶことも効果的なキャリア教育です。



Abi-ふるさと 「田口 静」

7月9日に、湖北台東小学校第6学年で、Abi-道徳として、我孫子の先人「田口静」についての学習を行いました。子ども達は、「田口静」が当時無医村だった湖北村（当時）で医院を開業し、「医は仁なり」の精神で献身的に医療活動を行ったことを知ると、それぞれに「田口静」という先人のすばらしさについて思いを馳せ、また友達とその意見を共有しながら「田口静」という人物を多角的に見つめていきました。



この授業をとおして、子ども達は、自分の利益を求めず、地域の人々のために尽くした「田口静」の生き方に心を動かされていました。「田口静」という先人に会い、その生き方に触れ、自分の生き方についても考えていた子ども達でした。



Abi-ふるさと 「中野治房」



7月12日に、我孫子中学校第1学年で、Abi-道徳として我孫子の先人「中野治房」についての学習を行いました。テーマは手賀沼を例に「環境問題を考える」です。

まちの活性化のために遊園地を作ることに賛成か、反対か、理由とともに考える内容から授業が始まりました。生徒たちは、「ふるさと我孫子の先人たち」を読み、手賀沼で水生植物の研究をしていた中野治房の功績を知り、最後は手賀沼のほとりに住む一人として

「将来こんな手賀沼になってほしい」「そのためには何が必要か」を考え、発表しました。環境を守りながらまちの発展について考えたり、手賀沼の将来を考えたりすることで、我孫子のまちについて深く考えるきっかけとなる授業でした。

こうした授業をとおして、地域や我孫子への関心を高め、郷土愛を涵養していきます。



Abi-ふるさと 「飯泉 喜雄」

7月16日に、新木小学校第5学年で、Abi-道徳として我孫子の先人「飯泉喜雄」についての学習を行いました。

学習の始めに、今と昔の地図を比べて、たくさんの方に気づく子どもたち。住宅が増えた、橋ができた、道路が増えた、線路が増えた、大学ができた等の意見が出ました。

我孫子市のこのような変化に、飯泉喜雄という人物がどのように関係しているのかを調べていきます。

「鉄道無くして、町の発展無し」と信じて尽くす飯泉喜雄の心情に迫っていくと、子どもたちからは、「我孫子を発展させたい。」「人でにぎわう町にしたい。」「くらしをよくしたい。」「仕事に行きやすくしたい。」「町と町をつないで人と人をつなぎたい。」等の意見が出ました。

町と町がつながり、人がつながる町だから、人が増え住宅が増えた。どこへでも行ける、どこからでも来やすい町だから、大学が建ち人でにぎわうようになった。最初に見比べた現在の地図は、飯泉喜雄が思い描いた町のすがたです。これからの我孫子は、飯泉喜雄の想像を越えたすがたになるかもしれません。

自分たちは、人のために、町のために、何を行うか、自分事として考えを深める時間になりました。



キャリア教育も、ふるさと学習も、「人との出会い」や体験的な学習が効果的であることは、子ども達の学ぶ姿勢や意欲、表情からよく伝わってくる。

これからも、我孫子の先人をはじめ、地域の方々や、働く人々と子ども達がどんな出会いをするのか、そしてその出会いからどんなことを学び、仲間と共有していくのか、楽しみうな～！





T S U N A G U

小から中への滑らかな接続に向けて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年9月8日

我孫子市小中一貫教育だより

第233号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうきちさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫教育&コミュニティ・スクール(CS) 研修会を実施したうな～

市教委主催で市内全19校を対象とした、「我孫子市小中一貫教育&コミュニティ・スクール(CS)」研修会を各学校での研修動画を視聴するというかたちで実施しました。

研修会には、教頭、教務主任、研修主任、学年主任など、様々な立場の方が参加し、それぞれ小中一貫教育、そして令和4年度から市内全校に導入する学校運営協議会制度について、その立場から見つめてもらう機会となりました。

今回は、研修会に参加した方からの感想を紹介します。

我孫子市小中一貫教育&CS研修会の感想(一部抜粋)

- ・我孫子市の教職員全員が「我孫子市小中一貫教育基本方針」について、しっかりと把握した上で児童の教育活動にあたる必要があると感じる。特に、「目指す子ども像」を見据えて日々の教育に向き合いたい。
- ・未来を生きる子どもたちの「生きる力」の育成のために、教員が小中一貫教育に対する理解を深め、「たて」と「よこ」の関係諸機関が連携していくことが大切だと思った。
- ・今後小中一貫教育推進の一つとして、小学校高学年でも教科担任制が推進されてほしい(実際の取組の中で、成果を実感している)。
- ・小学校5,6年から中学校1年にかけて、小中一貫教育の結びつきを強くするのなら、小中学校の実態をお互いの教員がもっとよく知るために、小中の交流行事をもっと増やした方がよいと思った。年間を通して、定期的な関わり方をもっと探るべきだと思う。
- ・各中学校区のランドデザインについては、適切な見直しが見られるよう、まずは中学校区の先生方と情報交換の場を設定し、中学校区の実態及び課題を共有・把握することから始めていきたい。
- ・現時点でも、各中学校区で共通認識のもとに取り組んでいることがある。それらがランドデザインに反映されなければならないと感じている。
- ・学校運営協議会制度の来年度のスタートに向けて、新しいものを始めなければならないと感じていたが、既存の教育活動(学校の願い)に、地域の願いを組み込んで協力・連携して取り組んでいくのだと理解することができた。
- ・学校運営協議会の力を借りた地域教材や人材活用により、郷土愛を育て、キャリア教育の充実と児童生徒の自己肯定感を高められるような教育活動が実践されることに期待したい。
- ・学校運営協議会制度に参加する地域住民や保護者、地域コーディネーターにも、今回の研修内容を理解していただく機会を設け、趣旨を理解し学校へ協力していただける体制をまずは作りたい。
- ・小中一貫教育や、CSの大きな課題は、学校運営に関する地域や職員の思いが、一部の委員や中心となって関わる職員にとどまりがちなことである。





TSUNAGU

令和3年9月8日

我孫子市小中一貫教育だより

第234号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

夏休み中に行われた、小中合同の研修会や教育ミニ集会を紹介するうな～

夏休み中に、3中学校区で、小中合同の研修会や、教育ミニ集会が行われました。緊急事態宣言下となりましたが、リモート形式で、それぞれ工夫して実施しました。

布佐中学校区

8月20日に、Teams を利用した小中合同研修会を実施しました。前半では、コミュニティ・スクール（CS）について、教育委員会指導課担当から、我孫子市の目指すCSについての説明し、教員一人一人の立場からどうCSと関わっていくかなどについて、考える機会となりました。後半では、子ども達の利用するタブレット端末の活用についての研修を行いました。教師役、児童生徒役に分かれて、その操作について体験をしました。今後のタブレット端末活用に向けて和気あいあいとした雰囲気の中、積極的に取り組んでいました。



久寺家中学校区

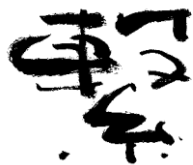
8月24日に、Zoom を利用した小中合同教育ミニ集会を開催しました。今回は教職員を中心に、保護者や地域の方は、別日に本日開催の内容について録画したものを視聴していただき、ご意見等を募るといふかたちとなりました。内容は「コミュニティ・スクール」と題し、教育委員会指導課担当による我孫子市でのCS導入の背景や目的、またその意義についての説明を共有しました。途中、根戸小学校の先生方による役割演技で実際の学校運営協議会の様子を再現するなど、本制度の要となる協議会委員による「承認」について知る機会となりました。



白山中学校区

8月24日に Teams を利用した小中一貫教育研修会、そして Zoom を利用した教育ミニ集会が行われました。前半の研修会では、白山中学校区3校の教職員が教科部会ごとに集まり、中学校区の小中一貫教育のテーマのもとに意見交換を行いました。続いて、保護者や地域の方も交えて教育ミニ集会を行いました。千葉県教育庁の生涯学習課担当者を講師にお招きし、CSについての理解を深めたのち、意見交換を行いました。協働すると、どんなことができるのか、また学校はどんなことをしてほしいのかなど、今後導入に向けての検討の一步となりました。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年10月13日

我孫子市小中一貫教育だより

第235号



我孫子市マスコットキャラクター

「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター

「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践の様子を紹介するうな～!

まずは、我孫子第四小学校と新木小学校で行われた Abi-キャリアの食育の学習様子を紹介します。2つの授業ともに、担任と栄養職員が連携して、子ども達の学びを深めていました。

Abi-キャリア「バランスのよい食事とは？」

10月1日に、我孫子第四小学校第5学年で Abi-キャリアの食育の学習が行われました。本時の学習では、バランスの良い食事とはどのようなことかについて学びました。

学習のスタートで、どのようにバランス良く食べればよいのかと問われると、「う～ん」「わからない」と悩む子ども達。

そこで、栄養士から各栄養素と食品の関係について説明を受けると、これまでの食の経験や知識と結びつけて、食品群の関係性に気付いていきました。先生や友達とのやりとりの中で「小魚は骨ごと食べられて、カルシウムも取れるから無機質のグループなんだ!」「給食のたらは、切り身の身だけを食べたから、たんぱく質なんだ!」と発見を重ねていきました。他にも調味料の原料に着目したり、原料と加工品の関係に着目したりしながら、理解を深めていきました。



最後に、普段食べている給食と栄養素、そして「主食」「主菜」「副菜」と献立表の関係に気づくと、「あ! そうだったんだ!」と納得顔の子ども達。自分達の食生活と関連づけながら、たくさんの発見があった1時間でした。

Abi-キャリア「こんだてを考えるとときに気をつけることは？」

9月21日に新木小学校第6学年で Abi-キャリアの食育の学習が行われました。本時の学習では、第5学年で学んだ5大栄養素の知識をもとに、どのように献立を考えていくとよいかについて学びました。

給食の献立を参考に、まずは栄養のバランスを確認すると、食品一つひとつに含まれる栄養素がすぐにわからないものもありました。すると食品群に注目し、「小麦はパンの材料になっているから、炭水化物」「たけのこは、野菜の仲間だから、ビタミン」と推測。これまでの学びが繋がっていく場面でした。

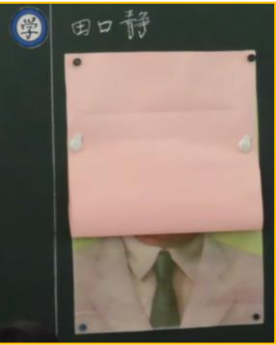


献立を考える上で、栄養素以外にどのようなことに気をつけたらよいか考える場面では、はじめはあまり思いつかなかった子ども達も、友達と相談する中で「味」「量」「盛りつけ」「かおり」「色合い」「カロリー」「食感」など、たくさんの視点が見つかりました。最後に、栄養教諭から、メニューを組み合わせる視点として「年齢」「好み」「行事(この日は十五夜でした)」のほか、「地産地消」などが示されると、子ども達の視点がさらに広がり、学びが深まりました。

続いて、布佐中学校と布佐南小学校で行われた Abi-ふるさとの学習の様子を紹介します。当日は同じ中学校区の小中学校の先生方が相互に参観することで、それぞれの学習について共通理解を図りました。

Abi-ふるさと（道徳） 我孫子の先人「田口 静」

9月29日に、布佐南小学校第6学年で Abi-ふるさとの学習が行われました。「田口静」は湖北地区で最初の開業医として地域に貢献した人物です。



学習のスタートは「田口静」という人物についてのクイズで始まりました。子ども達に大きな人物画を少しずつ見せながら、どんな職業か、どんな人柄かなどを想像させることで、初めて出会う我孫子の先人への興味関心を高めていきます。

続いて、資料をもとにわかる「田口静」の功績や人柄について、ワークシートにまとめていきます。資料には難しい言葉も多いので、その都度意味を共有したり、また友達と相談したりしながら、「田口静」という人物への理解を深めていきました。

学習のまとめでは、「田口静」にまつわるエピソードについて、医師として地域に貢献する姿に驚いたり、尊敬したりする感想が多くありました。また、医師という立場から少し離して考え、人柄や困っている人に寄り添う優しさなどに着目し、その大切さに気づいたり、自分ごととして考えたりする意見も見られました。初めての先人との出会いは、一つ大切な出会いになったようです。



Abi-ふるさと 我孫子の先人「松岡 鼎」

9月29日に、布佐中学校第1学年で Abi-ふるさとの学習が行われました。「松岡 鼎」は布佐地区で医師の資質向上や栄橋の架橋、布佐文庫の設立など地域の発展に尽くした人物です。

学習のはじめに、地域のために活動する人について想起し、様々な立場の人が地域貢献していることを再認識しました。続いて、資料を使って、「松岡鼎」の功績を丁寧に振り返っていきます。



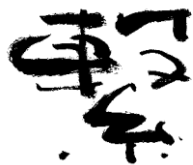
続いて、先人の生き方に触れ、「自分達が地域のためにできること」について考えました。この場面では、「地産地消」による地域活性化や「地域の伝統」を受け継ぐこと、また地域で働いたり、ボランティア活動に取り組んだりすることなどが挙がっていました。グループや学級全体で意見を交換することで、多角的な視点を持ち、また多くの考えに触れることができました。

最後の振り返りでは、ワークシートに地域のために貢献した「松岡鼎」への尊敬や感謝の念、また自分自身も地域のためにできることから取り組んでいきたいという思いなどが記されていました。先人をとおして地域を思い、地域を考える時間となったようです。



Abi☆小中一貫カリキュラムは、学習指導要領にもとづいた学びになっているうな。学年段階、学校段階が進むにつれて、学んだ事を生かしたり、学びが深まったりしていく様子が見えるうな～。





TSUNAGU

令和3年11月18日
我孫子市小中一貫教育だより
第236号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践の様子を紹介するうな～!

今回は、湖北台西小学校、高野山小学校、我孫子第四小学校で行われた我孫子の先人と Abi-キャリアの食育の学習を紹介します。

湖北台西小学校

11月10日に第5学年で、我孫子の先人「岡田竹松」についての学習が行われました。始めは聞きなじみのない名前に首をかしげていましたが、出身地が布佐だと知り、知っている地域の先人に興味を持ったようです。

真剣に資料を読み取りながら、岡田氏の業績や地域での取り組みについて学んでいきました。気象学という難しい分野については、大型モニターを利用して、共通理解を図りながら、学びを深めていました。理科との学習のつながりや、今後さらに地域について学んでいくなかで、より一層、先人の姿が身近に感じられることでしょう。



我孫子第四小学校

11月11日に第6学年で、我孫子の先人の一人「田口静」についての学習が行われました。湖北出身で、地域医療に貢献し、「赤ひげ先生」と呼ばれ人々から慕われていました。

農家の近代化という医者以外の一面や学校医として子ども達ともつながっていたことなどの話から田口氏について感じたことを友達と話し合いながら、先人の生き方に触れることができました。我孫子という土地には、誇らしい先人がいることを学んだ様子が見られました。



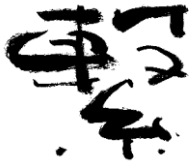
高野山小学校

11月11日に第6学年の Abi-キャリアの食育の学習が行われました。スペシャルゲストの栄養士の先生との特別授業。子どもたちは、テレビ画面に映し出される、単品の「魚」「サラダ」「牛乳」と食品名や料理名を次々と答えていきます。すると、「給食のトレー」が出現。「これは何？」との問いに「給食」「全部」と答える子どもたち。「一つ一つとこのトレー全部の違いは何？」と聞かれて「全部でこんだて」とわかりました。



給食の献立を参考に、五大栄養素の学習を振り返りながら、食品の栄養素を確認していきました。これまでの学びを生かしながら栄養のバランスについて学びました。

栄養のバランスだけでなく、よりよい食生活とよりよい消費生活、より良い生産活動について考えていく学習となりました。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続において

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年1月26日

我孫子市小中一貫教育だより
第237号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

教務主任研修会での義務教育学校への視察、高野山小学校にて我孫子の先人の授業が行われたうなー！

教務主任研修会

11月18日に、教務主任研修会で行ったつくば市立みどりの学園義務教育学校を視察しました。義務教育学校では、義務教育期間の9年間を一貫して教育を行っています。

真新しい校舎にも目を見張りましたが、小学生でも中学生でも自分の考えをICTを活用してまとめ、プレゼンする姿は、我孫子市の小中一貫教育にとっても大きな学びがありました。



教務主任のレポートからは、「堂々とプレゼンをする子どもたちの様子を見て、勤務校との差を感じた。しかし、このような子どもたちは勤務校でも目指せることを感じた。『特別な学校』ではなく、『普通の学校』だったからだ。取り入れられることを考え、実行していきたい。」「ICT機器を小学生が当たり前で活用していて大変驚いた。小学校で学んだものが中学校で生かされないことのないように、中学校でも積極的にICT機器を扱う重要性を感じた。」などの感想がありました。



我孫子市でも、小中学校で子どもの姿を共有することで、新たな学びへとつながっていくのではないのでしょうか。

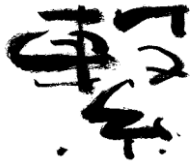
高野山小学校

11月18日に、第5学年で、我孫子の先人「飯泉喜雄」についての学習が行われました。

飯泉氏は、「鉄道なくして、町の発展なし」という思いで、我孫子駅開設のために尽力しました。そのおかげで、我孫子の発展であったり、多くの著名人の所縁の地となったことを学んでいきました。

子ども達は、やると決めたらやりきるという信念や、夢を実現させるための努力に気付いたようでした。ふるさと我孫子についての理解を深めました。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続に向けて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年1月30日
我孫子市小中一貫教育だより
第238号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践
の様子を紹介するうな～!

今回は、湖北台東小学校の「キャリア教育」と我孫子第三小学校の「我孫子の先人」の学習を紹介します。

湖北台東小学校

11月25日に、職業に関わる学習として「夢の扉プロジェクト ～プロフェッショナルに聴く会～」が行われました。

プロフェッショナルとして、看護師、消防士、美容師、調教師、パティシエ、学校事務職員の6人を講師として迎え、グループに分かれてそれぞれの職に関する話を聴きました。

子ども達は、実行委員を中心に、役割分担をしてそれぞれの役割に責任を持って準備を行い、当日も主体的に行動する姿が見られました。



講師に積極的に質問し、自身の学びにつなげていく姿も印象的でした。

講師を引き受けてくれた保護者や地域、関係職員の皆さんもこの日のために様々な資料や実際に仕事で使う道具などを準備してくださり、子ども達は体験的な学びを通して、それぞれの職の魅力や、大変さなどを直接学ぶことができました。



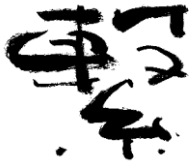
我孫子第三小学校

11月26日に、第5学年で、我孫子の先人「岡田武松」についての学習が行われました。

「気象学の父」と呼ばれ、どのような業績を残したのかを学んでいきました。「台風」と名づけたことを知ると「へえ～」と驚きのつぶやきが聞こえてきました。

勲章ももらうような偉い人物でも用事があれば自ら相手の元を訪ねたり、地域の子どもの教育にも貢献したりしていた我孫子の先人の生き方について触れることができました。「气象台公園」は飯泉氏に所縁があると聞くと身近に感じられたようです。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続において

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年12月2日
我孫子市小中一貫教育だより
第239号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫教育の取り組みや Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践の様子を紹介するうな～！

今回は、布佐中学校区の「教育ミニ集会」と我孫子第二小学校の「いのち・こころ・からだの学習」を紹介します。

布佐中学校区教育ミニ集会

11月29日に「布佐中学校区の子どもたちを学校・家庭・地域で育てるために、私たちができること」をテーマに布佐中学校区の教育ミニ集会が実施されました。

地域コーディネーターから「地域学校協働活動についての実績」の説明や、指導課担当より「CS導入の背景や国の動き、我孫子市の目指すところ、布佐中学校区でのこれまでの取組とCSについて」の説明がありました。

また、3校の教職員、保護者、地域の方が混じってグループ協議が行われました。学校・家庭・地域が連携してできることや、今後取り組みたいこと、また取組に当たっての課題についてたくさんの意見が出ました。



学校、家庭、地域の様々な立場の方が、それぞれの視点で、それぞれができることについて語り合い、情報共有が行えたことは、とても有意義でした。また、多くのグループで、「情報共有」「子どもの姿の共有」がもっと必要という課題が上がりました。とくに、これまでの取組によって、子ども達がどのように変わったり、成長したりしたのかを知りたい、という声が多かったです。まずは、こうしたことについて「共有」していくことが、布佐中学校区のCSの第一歩につながっていくと思います。



我孫子第二小学校

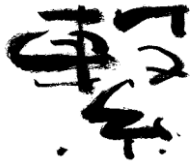
11月30日に、第2学年で、「いのち・こころ・からだの学習」が行われました。「わたしのたんじょう」を主題として、道徳の「ほく」「たんじょうび」、生活科の「心のノート」と関連した学習です。

ドクン、ドクン…。「何の音だろう？」 胎児の心音を聴かせます。

赤ちゃんができるメカニズムを学んだり、赤ちゃんを産んだことがある先生から、お腹に赤ちゃんがいた時のお話を聞いたりしました。みんなのいのちは、いつから始まったのか学びました。

子ども達は、「いのちのひみつがわかった」「わたしが生まれるまえにこんなことがあるんだとか、いろいろなことがあってくろうしたことがわかった」と学んだことを振り返っていました。我孫子市の目指す子ども像である「自他を大切にする子ども」の育成につながる学習でした。





T S U N A G U

- **小から中への滑らかな接続において** -

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年12月17日

我孫子市小中一貫教育だより
第240号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

**Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践
の様子を紹介するうな～!**

今回は、根戸小学校の「あびこの先人」と並木小学校の「食育」の学習を紹介します。

根戸小学校

12月2日に第5学年で、我孫子の先人「田口静」についての学習が行われました。

田口氏の写真から印象を聞くと、「社長!」、「なんで?」、「えらそうに見えるから」、そんな答えが出る中で始まった授業でした。貧しい人たちに寄り添い、医師としてだけでなく、地域の問題に懸命に取り組み、貢献したことを知り、児童たちの印象が変わっていきました。

「すごい!」と思ったところとその理由を書き、友だちと話し合い、発表をした後は、「お金をもらわずに治療する思いやりのある人ですすごいと思った。」「自分がしなくてよいことを、みんなのために一生懸命にやるところは自分も見習いたい。」などの感想がありました。



並木小学校

12月3日に第6学年で、「食育」の学習が行われました。

普段の食生活から、自分たちに、ある栄養素が足りないことに子どもたちが気づきます。そして、成長期にこそ、その栄養素が必要であるとわかった子どもたちは、自分の食生活改善のために、栄養素が入った食品を探し始めます。



その栄養素は、無機質（特にカルシウム）でした。永澤栄養士から、給食では1日に必要な摂取量の約半分のカルシウムが摂れることを伝えられると、「給食はありがたい。」「給食ってすごい。」との声が聞こえました。

これからの献立づくりでは、カルシウムたっぷりのメニューが生まれるのでしょうか。

